

宣言

這回の世界大戰は、正に、文明史上の一轉回期を劃したりと言ふべし。之に依て、社會現象中幾多の價值轉換は最も急激に行はれ、昨は不易の權威の如く眩耀せしもの、今や一顧に値せざるものあり。思想界は混沌として其の歸嚮する處を知らず、一方に過激奇矯の思潮横溢するあれば、他方に頑迷なる保守的思想の鼓吹せらるゝあり、甲論乙駁其の聲徒に高けれど敬虔なる信念の閃を認むるによしなく、舉措亦輕燥浮薄ならんこと。斯くして政治、經濟、社會上の諸問題は經緯紛糾し來つて益々吾人の生活を脅威せんこと。此の時に方り拱手傍觀爲す處無くんば焉んぞ健全なる文化の進展を望み得べけんや。この不安動搖窮りなき現狀に一導の光明を求むるは實に刻下の急務ならずんば非ず。繼て吾國の狀況を見るに今も尙昔の如く縱に舊人跋扈して急轉直下せるこの世界の氣勢に順應せんとする誠意と努力との見るべきもの殆んど無く、改造の日既に三竿なるにも拘らず猶昏々として長夜の夢に耽るのみ。彼を思ひ之を思ふ時吾等は舊人の時代去て今や新人奮起の秋なる事を痛感せざるを得ず。

茲に吾等同志團結し、既成政黨の何れにも属せず、又資本勞働其他何れの階級にも偏せず、獨立不羈飽く迄純正なる青年の眞理を熱愛し、公正を欲求する信念の下に、研鑽努力して以て健全なる文化の進展を圖らんことす。

敢て滿天下の青年同志に訴ふる所以なり。

大正九年六月

一新會